

合格サポート定期便（12 年目標試験対策 受験経験者向け）6 月号

6 月号の主な番組内容

12 年目標合格に向けた 12 年目標の受講生（受験経験者）を対象とした合格サポート定期便、第 8 回となります。今月号は、「この時期に差をつける学習方法」について、三好講師をゲストに迎え、フリートーク形式でお送りいたします。

※番組内で紹介されている模試・本試験関連情報はこちらをご参照ください。

1 次公開模試

http://www.tac-school.co.jp/kouza_chusho/chusho_1jkoukai.html

メールの募集について

「合格サポート定期便」は T A C 側からの一方的な情報配信番組ではなく、視聴されている皆さんとコミュニケーションをとりながら、一緒に作り上げていく番組です。

7 月号の予定内容・メールでいただきたいコメント

7 月号では、初学者・経験者合併号として、全国の T A C 診断士講座講師より「1 次試験受験に向けた応援メッセージ」が届いておりますので、そちらをご紹介します。

《メール募集内容》

- ・「合格サポート定期便」で取り上げて欲しいテーマや情報
- ・番組の感想やご意見

など、皆様の声を是非お聞かせください。（上記以外のテーマでも大歓迎です！）

※7 月号では、「1 次試験受験に向けた応援メッセージ」をお送りします。よってメールのご紹介は 8 月号とさせていただきます。

【メール受付期間】

随時受け付けております。主に 2012 年 8 月 9 日（木）まで 24 : 00 にいただいたメールについて、次号でご紹介していきます。



【メール送付の方法】以下の案内に沿ってメールをお送りください。

- ・ 送付先メールアドレス：shindan-support@tac-school.co.jp
- ・ メールタイトル：「合格サポート定期便係」と記載してください。
- ・ 本文：
 - ① 会員番号・お名前を記載してください。なお、番組内で採用されたメールは、お名前を公表します。匿名やペンネームなどの希望があれば併記してください。
 - ② 教室講座・DVD 講座の方は受講している校舎名（仙台校、新宿校など）、通信講座の方は利用している学習メディア（Web 通信、DVD 通信など）を記載してください。
 - ③ メッセージの書式は自由です。一度にたくさんのコメントをいただいても、一言だけでも結構です。

【ご注意事項】

- ・ ラジオ番組の葉書と同様、いただいたメールに関する回答は番組内でのみ行います。個別にメール返信は行いませんのでご了承ください。
- ・ 学習内容に関するご質問にはお答えできませんのでご了承ください。

以上

★テーマ

「書く」ということ

筆記試験において、唯一無二、得点に直接的に結びつく作業が「書く」ということです。頭の中で考えているだけでは得点にはなりません。しかし、書いている最中は他の作業ができませんので、できれば短時間で済ませたい作業でもあります。

つまり、「書く」という作業を短時間で済ませることができれば、分析時間などに時間を多く当てることができ、自ずと得点を積み上げる可能性が高まることになります。

ただし、「書く」スキルについては、体に馴染ませるのに、ある程度の時間を要します。ですので、この時期に是非、「書く」スキルについて練習を重ねてライバル達に差をつけちゃいましょう！

ここでは早坂が受験時代にやっていた「書く」練習についてご紹介します！

練習 1

○考えながら書くのではなく、考えてから書く

まず、「書く」前段の重要な作業としては、「頭の中で解答を整理・読み上げる」ことです（もちろんその前段としては分析が必要ですが、そこまでのプロセスは割愛します）。

文章を作成するスピードの速さという点においては、

- ①黙読（頭の中で文章を構成する）
- ②声に出す
- ③パソコンに打ち込む
- ④書く

の順番が一般的です。人によっては②③の順番が入れ替わるかもしれませんが、①と④の相対的な順位は未来永劫変わることはなく、かつ試験に必要なのが①と④です。

100 字の解答を頭の中で整理して読み上げるのには 1 分も要しません。この作業を焦って割愛してしまうと、結局、消しゴムを使う羽目になり、時間を要することになってしまいます。消しゴムは得点を生み出さないばかりか、時間までも奪ってしまう恐ろしい作業です。

まずは、分析した内容を頭の中で何度も何度も解答にする練習をしましょう。

練習 2

[illegible]

E…無くせないか
C…一緒にできないか
R…順番を入れ替えられないか
S…簡素化できないか

※E C R Sは改善策の順番も重要ですが、ここでは特に順番は気にせず使用できる観点を使ってください。E Cをやらずに、Rだけ実施してもOKです。

(例) 完成演習⑩ 第2問 (配点 15 点)

コンビニエンスストアの出店に対し、大手和菓子店は出店戦略で対抗している。そのような中、B社は結果的にどのような対抗策を講じていると考えられるか。大手和菓子店との違いの観点から100字以内で述べよ。

Aさんの解答

大	手	和	菓	子	店	は	コ	ン	ビ	ニ	エ	ン	ス	ス	ト	ア	の	出	店
に	対	し	て	攻	め	の	姿	勢	を	崩	さ	ず	全	国	の	主	要	都	市
に	支	店	を	多	く	出	店	す	る	こ	と	で	知	名	度	を	高	め	て
い	る	が	、	B	社	は	信	頼	で	き	る	菓	子	職	人	を	育	成	し
の	れ	ん	分	け	に	よ	り	商	号	を	受	け	継	が	せ	て	い	る	。

○改善策 1

問題要求の主役は「B社はどのような対抗策を講じているか」である。「手和菓子店との違いの観点（大手和菓子の対抗策）」にも得点が入る可能性はあるが、問われ方からしても、B社の対抗策より優先順位（得点の配分）は下がるだろう。

→大手和菓子店の内容を「E」「S」してみる。

○改善策 2

どうしても頭でっかちになってしまう（余計なことを長く書いてしまう）なら、まずはB社の記述を先に書いてみる（Rの観点）。

○改善策 1 ※E、S を実施

大	手	和	菓	子	店	は	全	国	に	支	店	を	多	く	出	店	す	る	こ
と	で	知	名	度	を	高	め	て	い	る	が	、	B	社	は	信	頼	で	き
る	菓	子	職	人	を	育	成	し	の	れ	ん	分	け	に	よ	り	商	号	を
受	け	継	が	せ	て	い	る	。											

※余った升目には是非、B社の対抗策を記載してください。

問われていることに対して素直に打ち返そう！

○改善策 2 ※R を実施

B	社	は	信	頼	で	き	る	菓	子	職	人	を	育	成	し	、	の	れ	ん
分	け	に	よ	り	商	号	を	受	け	継	い	で	も	ら	い	、	過	大	な
設	備	や	人	材	を	抱	え	る	こ	と	な	く	知	名	度	を	高	め	る
こ	と	で	、	支	店	を	多	く	出	店	し	知	名	度	を	高	め	て	い
る	大	手	和	菓	子	店	な	ど	に	対	抗	し	て	い	る	。			

※これならB社の記述が入りきらないことはないかもしれません。

ただし、問題によっては違和感のある文章になってしまうこともあるので留意しましょう。

補足

実は、練習 1 から練習 2 までは「過程」が飛んでいます。つまり、頭の中で構成した文章を解答用紙に書き上げるという練習方法です。

この作業については、近道はありません。

練習 1 と練習 2 をひたすら繰り返すことで身に付くスキルです。理屈ではなく体に叩き込んでください。それが緊張した 2 次試験において「無意識のうちになされる作業」となり、合格に寄与してくれます。

最終ページは、受験時代に使用していた升目用紙です。良かったらコピーして使ってください。受験時代、何百枚とコピーした記憶があります。受験時代が 4 年間と長かったこともあります（笑）

合言葉は「絶対合格！！」

believe in yourself！

